

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）6

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43782

40/10/12 中島参事官・ピトリ日本課長会談

北米局長
参事 極秘
北米課長

政第7049号

昭和40年10月19日

外務大臣殿

在 米 武内大使



中島北米局参事官と國務省日本担当者

との沖縄問題に関する非公式意見交換

当地出張中の中島北米局参事官は10月12日

國務省におりて心部外東アソ局長、セントリー日本

課長、キリス、ルビゴ一同課長と非公式に懇談し

沖縄におきし米国のPRESENCEと日本復帰との二

命題の向しありて如何なる調整的施策が考えらるか

に就き極秘率直に意見を交換した。(当館干渉同席)

要処理	要連絡
要研究	至急
課長	上村
枝	河内
斎藤	吉田
有馬	山田
渡辺	平川
大崎	吉津
中田	
後藤	



GA-4

外務省

（在米、特に日新の考え方は出たが、彼我
もどの何等の結論に達した訳ではないか、彼我

と互に充分問題の所在を把握してありかつ現実的

実質的な考え方は有らぬと互に相互に知り合つた

極秘率直に意見を交換した。なお本件内容に

ついでに御取掛には御留意あり。要旨下記のとおり

記

1. 現地及び本土の心理・政情

(1) 現地・本土の心理の差

(当方) (再度) 現地出張より帰国

題等々711の沖縄住民の気持は極秘率直かつ

意外に平静であるとの強い印象を受けた。これに

反しわ、本土の方が強々しく、最近では現地訪問

一部の政治家その他による種々無責任な、殊に

米国の存在を主張する如き発言が聞かれたりする。

(2) 二の反面日本国民の意識も層々として

GA-4

外務省

沖縄についての問題意識が従来より更に深く
根を下し~~た~~たことは事実で、私見ながら1970年の
安保改訂期に在ると象徴的のものとしては、沖縄
をめぐって大まな強ま^りに在る様な気がする。

(2) 沖縄の左翼

(~~左翼~~ ^{左派}より) 近來現地政情に對する存在の影響が
社本党の^{傾向}
強ま^りては、一側は沖縄社会党の存在である。

但し同党の考え方は未だ仲々穩健で、今のま
でに、二枚玉味方^になるよりと努力を在ら^し如行。

(米側より) 面白い考え方と思う。沖縄の左翼は、佐藤
訪米の大成功中唯一の^{大成功の}黒馬たる^{（自由}
は、大したことは在ら^なか^つたが、^{（自由}永い眼で見ると MILITANT
な戦術をとるべく元気が、右の^{（自由}で在るかと、い
がする。

(3) 今秋の沖縄選挙

(1970年10月15日付 往信政中6951号の2(1)より
御報告の中島参事官、11-8-1 國務次官補佐理
の^際
間の意見交換と略同様の見解が述べられた。

2. 米国の PRESENCE と復讐のジレンマ

(1) 米側の基本態度

(米側より) 佐藤総理の現地における発言中、米側
としては、日米琉安全保障の相互依存を説き、
最も最近では、沖縄問題解決の手段

日本の戦後を論じていると述べられたが、この御返
答は、日本国民に在るべき感謝を多く与えるが、米側
としては、率直に言って、先程のコメントは、
なかった。

(2) このことは別に、いわゆる HARDLINERS のみならず、いわゆる
「自由派」を通じても言えることでは、米国の沖縄
における存在の必要性は、着々強くその確保は
対極東政略上一つの至上命題である。従って

沖縄返還のタイムテーブル作成などと言ったことは
 全然問題とならない上、軍部・文部^省正向的^に米側
 を利権^者のみである。私見から米國が沖縄
 を返還出来るような事態となることが何十年
 か、このか全く見当もつかない。

(2) 米側の対応ありと人負

(イ) (当方側) 日本政府とにも現地住民に誤った
 希望を持たせたり、甚極力努力しては、地方
 全然希望を挫いて了う最も危険である。

この奥ワトソン高等弁務官の施策は中庸を得て
 非常に立派なと思う。そのスロフも仲々弾力ある
 考え方の人が多く結構な^{現地の}政策立案
 能力で折いい人材が現出も良いものがある。

(ロ) (米側側) 最近優秀な折いい人材が次々に現地
 に送り込まれて了。USCARのみならず、国防省

陸軍省当局も「ムラサキ」、的では「自由派」的有
 考え方の方が強^いと思^う。基地保有と復帰
 のビリエス正前に、日米双方軍官民の考え方を出来
 文 稔 練 弾 力 性 有 る も の と 為 林 漸 次 教 育 行 々
 此が 絶 対 上 所 要 有 る こと を 認 め る。(当方)佐藤 敏
 地 方 保 有 協 定 正 確 的 和 議 日 本 自 治 領 域 内 駐 在 國 民 諸 君 向 け
 3. 現 実 上 と 可 行 性 調 整 的 施 策 此 次 指 摘 せ ぬ。

(1) 人心と改革の競争

(米側側) 米國とにも復帰に必要の現地住民の向上
 の強い気持がその政治上の重要性は充分心得て

いる。私見から、米側の沖縄基地保有と日米間の
 新^{たな}国際合意 — 但し沖縄の特殊性と認め現行在

日基地に肉 打つことは異つた内容の — の規則下に
 おくことが 最良の方法 と思う。言うまでもなく、此の

実現容易に、又、根本的方法を待つことの
 ではビリエスが益々激化する。やはり今から絶えず

新しい施策を打出し、改革は漸進的の針路に
行かざると思ふ。改革は後手なで、^{（は）人心の進み方と改革の速さ} 懸念問題発生
を予見し適切に行なわれしに乏し。日本側には
と先づ措置が考へられたと思われ。 ~~（中略）~~

(2) 具体的施策 — 諸制度の同一化

(左の方) 端的に言へば現地住民が本土の日本
国民と異つた体制下に生きているという意識を有
せしむべきと思ふ。その為には ~~（中略）~~ 現地の
INSTITUTIONS — 法律・自治・経済・社会その他
各般に亘る諸制度を本土と同一に極め難
くしたものを改行すべきに在り。右と左の ⁽¹⁾ 國境
指搦の制限を如何に寛容にせよともなれども
早急に撤廃せざるべし。向は本土現地の
海航の自由化は、特に本土国民に於て米軍の
下の一助観念の向題も有るが、必要であるに

現地住民の海外旅行自由化、在外の場合日本
旅客を保存し日本国民と同一の保護を享有す
様、種々技術的向題（右と左の南連の旅客
等給在い）があるが直刻に考へしむる如し。

(右の方) 通商の統一は先づ自備大向題に在り。其の
半の施設は其の在りたるに在り。是れを以て
と思ふ。

(米側の方) 大變考と在り。旅客の往來は實に種
部内を檢査中である。國務省が或る提示す
るに本件を嚴に貴方その他に改められしに在り。

[付記] 本件懸念は後、比、保、米、法、露、日、
包造、右、内南洋委任統治領諸水取向題上
小出、華僑当局と在りたる向題に在りしに在り。
此は日米關係に在り影響を及ぼす。答は ~~（中略）~~

いとの取捨は強いか^{自衛側}弱いか^{中島側}と並べたので、自衛側も
 其存続とは同じであると答えたが、これは今国務省内
 の意見にこの奥に字を挿入している。未だ意見がまと
 まっていないが、右と反対の色に反する押して、自衛側が
 如何に電判の探求を行なうべきかと考へて、^{右と反対の色に反する押して}
 (た。)